

音楽科学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日（〇）
第4校時 11:35～12:20
対象 第4学年1組 34名
小学校
授業者 教諭
会場 音楽室

1 題材名 いろいろな音のひびきを感じ取ろう

2 題材の目標

- (1) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音色、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- (3) 打楽器の音色を生かしたつなげ方や重ね方のよさや面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①[知] 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付いている。 ②[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。	[思]① 音色、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	[態]① 打楽器の音色を生かしたつなげ方や重ね方のよさや面白さに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

4 指導観

(1) 題材観

本題材は、小学校学習指導要領（平成29年告示）第2章第6節

音楽〔第3学年及び第4学年〕2内容 A表現

(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)ができるようにすること。

(イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること。

(イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴

ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

を受けて設定した。

〔共通事項〕(1)アとの関連を図るに当たり、「第3指導計画の作成と内容の取扱い」2(8)に示された「音楽を形づくっている要素」のうち、次の要素を関連付けて指導する。

ア 音楽を特徴付けている要素 「音色」、「音の重なり」

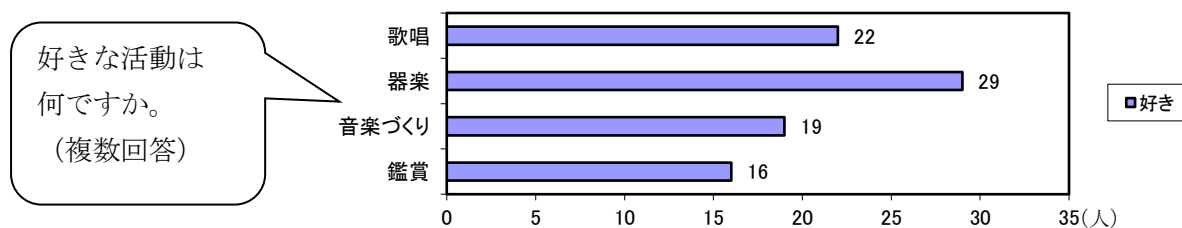
イ 音楽の仕組み 「音楽の縦と横との関係」

本題材では、図形のカードを楽譜に見立てて楽器の鳴らし方を工夫したり、カードを組み合わせて「始め」、「中」、「終わり」というまとまりのある音楽に構成したりすることを通して、楽器の音色や音の特徴を生かした拍節的な音楽をつくる学習を行う。第1時では、図形のカードを楽譜に見立てて即興的に音で表す活動を3人一組（一つのグループのみ4人一組）で行う。第2時では、打楽器の音の組み合わせや音のつなげ方、重ね方を工夫して、図形のカードを並べて「中」の部分の音楽をつくる。第3時では「始め」、「中」、「終わり」の音楽の構成を意識して、まとまりのある音楽として完成させ、それを発表し合い、互いの表現のよさを認め合う活動を行う。

本題材における音色については、打楽器の材質や形状の違いによって生み出される音の特徴に気付くようにする。音の重なりについては、異なる音色の楽器が同時に鳴ることで生まれる響きのよさや面白さに気付くようにする。音楽の縦と横との関係については、本題材においては楽器の音の重ね方によって生まれる響きと、音色や強弱を工夫して演奏する図形のカードのつなげ方との関係を指す。縦に積み重なる響きと、時間で進んでいく横の流れによって音楽ができていくことに気付いて音楽をつくることができるようにする。

(2) 児童観

第4学年の児童は第3学年の時から担当している。音楽の学習に意欲的に取り組む児童が多い。令和3年12月に第4学年1組(34名)を対象に行ったアンケートでは以下のような結果が得られた。



器楽が好きな児童が最も多かった理由としては、今年度11月に校内音楽会があり、合奏曲に2曲取り組んだことで大きな達成感を得られたことが考えられる。音楽づくりの学習でも、スモールステップで授業を展開した上で、ゴールのイメージを明確にすることや、児童の作品を教師が価値付

けることを通して達成感をもたせられるよう指導を工夫したい。

これまでの音楽づくりの学習としては、第3学年の題材「いろいろな音のひびきをかんじとろう」で、打楽器の音色を生かした鳴らし方を工夫し、それを図形楽譜として記録する学習を行った。緊急事態宣言の影響でグループ活動ができず、個人での活動となった。また、「ちいきにつたわる音楽でつながろう」では、ラドレの三つの音を用いて、4分の4拍子、2小節の旋律をつくる学習を行った。楽器は鉄琴や木琴を使用した。どちらの題材も個人での学習であったため、グループでの音楽づくりをするのは今回の学習が初めてとなる。個人の思いや意図をもたせるとともに、グループでどんな音楽をつくりたいかを十分に話し合わせるようにしたい。そのために、第1時からグループ活動を行うこととし、グループでの学習の経験を少しずつ積み重ねるようにする。また、音楽の仕組みを用いて音楽づくりをするのも初めてとなる。そのため、第1時に3人一組（4人一組）で図形のカードを楽譜に見立てて楽器の鳴らし方を工夫する学習をする際に、反復や変化、「呼びかけとこたえ」などの音楽の仕組みについても既習事項を基に触れるようにする。この活動を通して、次時以降の音楽づくりに音楽の仕組みを生かせるようにしたい。

(3) 教材観

ア 音楽づくり教材「打楽器の音楽」（教育芸術社 小学生の音楽4 P.48）

図形のカードを楽譜に見立てて音で表したり、カードを組み合わせて「始め」、「中」、「終わり」というまとまりのある音楽に構成したりすることを通して、楽器の音色や音の特徴を生かした拍節的な音楽をつくるための教材である。図形のカードは1枚を4拍として次のように演奏する。



図形カードに示された強弱に合わせて様々な音の出し方を工夫するとともに、木、金属、皮など材質の異なる打楽器を扱うことで、音の長短や高低などの音の特徴の違いや音色の違いに気付くことができるようにする。また、「始め」と「終わり」は三人で1枚のカードを選び、「中」では自由にカードを組み合わせてつくるというルールを設定することで、「中」の部分において、楽器の音の重ね方によって生まれる響きと、図形のカードのつなげ方によって音楽の縦と横との関係を用いた音楽がつけられるようにする。なお、木の楽器としてウッドブロック、クラベス、カスタネット、金属の楽器としてトライアングル、すず、シンバル、皮の楽器としてタンブリン、フレームドラム、ジャンベを選択できるようにする。



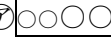
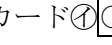


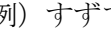


5 年間指導計画における位置付け

第3学年では、「いろいろな音のひびきをかんじとろう」の題材で、打楽器の音色や音の特徴を生かした鳴らし方を工夫する学習を行った。本題材では、そこで学習したことを生かして、打楽器の音色や音の特徴を生かしながら音を音楽へと構成することをねらいとしている。関連する題材は下記の表のとおりである。

第3学年 3学期	第4学年 3学期	第5学年 1学期
○いろいろな音のひびきをかんじとろう（9時間） 〔主な教材〕 「パフ」（芙龍明子日本語訳詞／ピーター・ヤーロウ、レナード・リプトン作曲／浦田健次郎編曲） 「まほうの音楽」	○いろいろな音のひびきを感じ取ろう（本題材・4時間） 〔主な教材〕 「打楽器の音楽」	○いろいろな音色を感じ取ろう（8時間） 〔主な教材〕 「リボンのおどり」（芙龍明子日本語訳詞／メキシコ民謡／原由多加編曲） 「打楽器でリズムアンサンブル」

楽器の音色や音の特徴の違いに 気づき、演奏したり音楽をつくっ たりする。	打楽器の音色や音の特 徴の違いに気づき、鳴らし 方や音の重ね方、つなげ方 を工夫して音楽をつくる。	楽器の音色や音の特徴の違いを 理解し、音楽の仕組みを生かして演 奏したり音楽をつくったりする。
--	--	---

6 題材の指導計画と評価計画（3時間扱い）

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	知・技	思	態
第1時	<p>◎音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに関わらせて気付く。</p> <p>○図形のカードを楽譜に見立てて即興的に手拍子で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (大きい円が二つ) というカードを見て、どのように演奏するとよいか考え、手拍子で打つ。 ・ (小さい円が二つ) というカードを見て、どのように演奏するとよいか考え、手拍子で打つ。 ・カード⑦とカード⑧を見て、どのように演奏するとよいか考え、手拍子で打つ。 (例) ⑦弱い、弱い、強い、強い ⑧強い、強い、弱い、弱い ・カード⑨とカード⑩を見て、どのように演奏するとよいか考え、手拍子で打つ。 (例) ⑨弱い音から連続した手拍子でだんだん強く ⑩強い音から連続した手拍子でだんだん弱く ⑩一回の手拍子で音が減衰するように表す <p>○図形のカードを楽譜に見立てて即興的に打楽器で表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3学年の時に行った「いろいろな音のひびきをかんとろう」の題材を振り返り、打楽器の材質による音色や音の特徴の違いを確認する。 ・材質ごとに分けて置いてある楽器コーナーで打楽器を鳴らして音色や音の特徴をつかみ、自分の使いたい楽器を選ぶ。 ・教師がカード⑦～⑩を各自に配り、児童は3人一組（4人一組）になって打楽器の音色や音の特徴を生かした鳴らし方を工夫しながら、一人1枚ずつカードを選び、つなげて演奏する。 (例) すずで→ウッドブロックで→ジャンベで ・幾つかのグループが、つなげたカードを工夫した鳴らし方で演奏し、発表する。 ・木だけ、金属だけ、皮だけの組合せで集まっているグループを取り上げて、響きに注目して聴き合う。 ・つなげ方によって、どんな感じがするか確かめる。 (例) 「木の楽器だけで演奏するとまとまりがある感じがしました。」 「⑦の次に⑧が来るとお話ししているような感じがしました。」 <p>○次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間はグループで打楽器の音を組み合わせて音楽をつくることを知る。 ・気付いたことや分かったことについて振り返りをワークシートに書く。 			

↓
① 知 観 察 ・ 演 奏 聴 取 ・ 発 言 ・ 記 述

第 2 時	◎音色、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。																
本 時	<p>○打楽器の音の組合せや重ね方、つなげ方を工夫して音楽をつくる方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カード㉗～㉙を使って「始め」、「中」、「終わり」の三つの部分からなる音楽をつくることを知る。 ・音楽をつくるルールを確認し、全体で「中」の部分をつくってみる。 <div data-bbox="247 568 1193 846" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><ルール></p> <p>①「始め」と「終わり」の部分は <input style="width: 200px; height: 15px;" type="text"/> <input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>.</p> <p>②「中」の部分は4種類のカードを自由に組み合わせてつくる。</p> <p>③㉗～㉙の4種類のカードのうち3種類以上を使う。</p> <p>④1枚のカードは4拍とする。</p> </div> <div data-bbox="225 891 1193 1128" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される作品の例】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>(始め)</td> <td>(中)</td> <td>(終わり)</td> </tr> <tr> <td>クラベス</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジャンベ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>すず</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・全体でつくった音楽を異なる材質の楽器を使って代表の児童が演奏する。 ・打楽器の音の組合せの違いによる響きを感じ取るために、木の楽器同士、金属の楽器同士、皮の楽器同士で、全体でつくった音楽を演奏してみる。 ・全体でつくった音楽の楽譜を見ながら、音楽の縦と横との関係について知る。 ・3人一組のグループに分かれ（一グループのみ4人一組）、どんな楽器を使うか試して決める。 ・ミニホワイトボード上でマグネット式のカード㉗～㉙を操作しながら、楽器の組合せや重ね方、つなげ方を工夫して「中」の部分をつくる。 ・工夫したことを3人（4人）で1枚のミニホワイトボードに書き込む。 <div data-bbox="247 1547 1203 1868" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の工夫の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の楽器だけを使って響きにまとまりを出しました。 ・いろいろな材質の楽器を使って、音色に違いが出るようにしました。 ・㉗のカードを繰り返すようにつなげ、その後に三人一緒に㉙のカードを演奏して、盛り上がった後に落ち着くようにしました。 ・カスタネットで㉗のカードを演奏した後にタンブリンで㉘のカードを演奏して、お話ししているみたいになりました。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかのグループがつくった音楽を全体で発表し聴き合う。 ・聴き合ってみていいなと思った楽器の組合せや重ね方、つなげ方を取り入れながら「中」の部分完成させる。 ・気付いたことや分かったことについて振り返りをワークシートに書く。 		(始め)	(中)	(終わり)	クラベス				ジャンベ				すず			
	(始め)	(中)	(終わり)														
クラベス																	
ジャンベ																	
すず																	

↓

思
① 観察・演奏聴取・発言・記述

第 3 時	<p>◎思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の縦と横との関係を用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくる。</p>																								
	<p>○「始め」、「中」、「終わり」の音楽の構成を意識して、まとまりのある音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「始め」と「終わり」の部分をつくって音楽を完成させることを知る。 ・<ルール>の①の空欄部分は「3人が同じカードを1枚選び、一緒に演奏する。」であることを知る。 ・一グループの作品の「中」の部分を例に挙げ、「始め」と「終わり」の部分全体でつくる。 <table border="1" data-bbox="220 568 1206 804"> <thead> <tr> <th colspan="4">【予想される作品の例】</th> </tr> <tr> <th></th> <th>(始め)</th> <th>(中)</th> <th>(終わり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>すず</td> <td></td> <td>○○○○</td> <td>○○○○</td> </tr> <tr> <td>トライアングル</td> <td>◁</td> <td>○○○○</td> <td>▷</td> </tr> <tr> <td>シンバル</td> <td></td> <td></td> <td>○○○○</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・「中」の部分をつくったグループの児童が演奏する。 ・グループに分かれ、「中」の部分を確認する。 ・ミニホワイトボード上でマグネット式のカード㊸～㊾を操作しながら、始め方や終わり方を工夫して音楽をつくる。 ・工夫したことをミニホワイトボードに書き込む。 <table border="1" data-bbox="245 1037 1206 1361"> <thead> <tr> <th>【予想される児童の工夫の例】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・㊸のカードで盛り上がるように始めて、㊾のカードで落ち着いて終わるようにしました。 ・㊹のカードで強い音から弱い音になるところから始めて、「中」の部分の㊸のカードの弱い音につながるようにしました。 ・盛り上がった感じで終わりたかったので㊹のカードを「終わり」の部分に選びました。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>○グループごとにつくった音楽を発表し聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を拡大してホワイトボードに映し出し、工夫した点を発表する。 ・つくった音楽を演奏する。 ・聴取側はいいなと思ったことを発表する。 ・気付いたことや分かったことについて振り返りをワークシートに書く。 	【予想される作品の例】					(始め)	(中)	(終わり)	すず		○○○○	○○○○	トライアングル	◁	○○○○	▷	シンバル			○○○○	【予想される児童の工夫の例】	<ul style="list-style-type: none"> ・㊸のカードで盛り上がるように始めて、㊾のカードで落ち着いて終わるようにしました。 ・㊹のカードで強い音から弱い音になるところから始めて、「中」の部分の㊸のカードの弱い音につながるようにしました。 ・盛り上がった感じで終わりたかったので㊹のカードを「終わり」の部分に選びました。 		<p style="text-align: center;">② 技 観 察 ・ 演 奏 聴 取</p> <p style="text-align: center;">① 態 観 察 ・ 発 言 ・ 記 述</p>
【予想される作品の例】																									
	(始め)	(中)	(終わり)																						
すず		○○○○	○○○○																						
トライアングル	◁	○○○○	▷																						
シンバル			○○○○																						
【予想される児童の工夫の例】																									
<ul style="list-style-type: none"> ・㊸のカードで盛り上がるように始めて、㊾のカードで落ち着いて終わるようにしました。 ・㊹のカードで強い音から弱い音になるところから始めて、「中」の部分の㊸のカードの弱い音につながるようにしました。 ・盛り上がった感じで終わりたかったので㊹のカードを「終わり」の部分に選びました。 																									

7 指導に当たって

◆第2期班テーマ ねらいを明確にした授業づくり～対話的な学びの充実を通して～

ねらいを明確にするということは、本題材で身に付けさせたい力を明確にするということである。これを対話的な学びの充実を通して行うためには、児童の実態に合わせた指導計画を立てたり、グループ活動の場の設定をしたりする必要がある。そこで、本題材では以下の視点から指導を工夫する。

(1) 授業展開の視点から

ア スモールステップでの授業展開

本題材では、題材を通して図形のカードを楽譜に見立てて表現する活動を行う。第1時では、まず図形のカードをどのように楽譜に見立てるかということから学習を始める。始めは手拍子で行うことで、その後の楽器を使った活動にスムーズに取り組めるようにする。楽器を使った活動では3人一組（4人一組）となって、図形のカードに示された図形の大きさに合わせて打楽器の鳴らし方を工夫するとともに、カードをいろいろな順番でつなげて演奏してみる活動を行う。第2時で音の組合せを工夫したり音楽の仕組みを生かしたりして音楽づくりをするために、楽器の音の組合せによる響きの違いを比較して聴き合ったり、反復や変化、「呼びかけとこたえ」を用いて表現している例を紹介したりする。この経験を生かして第2時では、図形のカードを重ねたりつなげたりして「始め」、「中」、「終わり」のうちの「中」の部分をつくる。三つの部分からなる音楽をつくることは伝えるが、「始め」と「終わり」の部分の具体的なつくり方については第3時に伝えるようにし、第2時では「中」の部分をつくることに集中できるようにする。そして第3時では、音楽のまとまりを意識して「始め」と「終わり」をつくり、音楽を完成させるようにする。このようにスモールステップで授業を展開することで児童が達成感を得ながら学習に取り組めるようにする。

イ 視覚的な教材を活用した学習活動

本題材で使用する図形のカードはマグネット式にし、ワークシートを貼ったミニホワイトボードの上で操作できるようにする。音を出して試行錯誤しながらカードを操作することで、今思考していることが目で見えるようにする。また、操作して決めたことがそのまま楽譜となるので、記録しておくことが容易にできる。

また、いろいろな音のつなげ方や重ね方について視覚的にわかりやすいように図で表したカードを音楽室内に掲示し、これを参考にして児童がいろいろな音の重ね方やつなげ方を試すことができるようにする。

(2) 対話的な学びの充実の視点から

題材を通して、3人一組のグループ（一グループのみ4人一組）で学習を行う。第1時では、図形のカードに示された図形の大きさに合わせて打楽器の鳴らし方を工夫しながら、カードのつなげ方を3人（4人）で試しながら演奏する学習を行う。第2時と第3時では、打楽器の音の特徴を考えて音の組合せを考えたり、音楽の仕組みを生かして重ね方やつなげ方を工夫したりする活動を行う。これらの活動を通して対話的な学びの充実を図る。グルーピングは教師が行う。

8 本時（3時間中の第2時）

(1) 本時の目標

音色、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

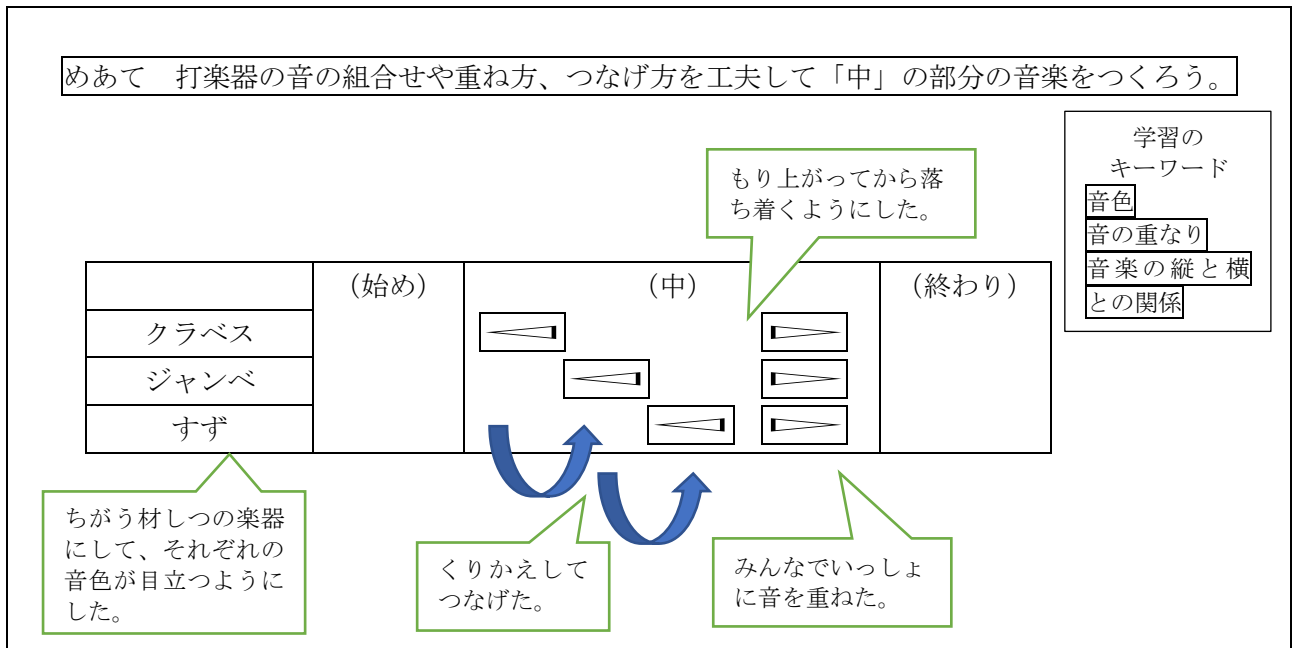
時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	評価規準 (評価方法)																
導入 10分	<p>○打楽器の音の組合せや重ね方、つなげ方を工夫して音楽をつくる方法を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> カード㉗～㉙を使って「始め」、「中」、「終わり」の三つの部分からなる音楽をつくることを知る。 音楽をつくるルールを確認し、全体で「中」の部分をつくってみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><ルール></p> <p>①「始め」と「終わり」の部分は</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; margin: 2px 0;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; margin: 2px 0;"></div> <p>。</p> <p>②「中」の部分は4種類のカードを自由に組み合わせてつくる。</p> <p>③㉗～㉙の4種類のカードのうち3種類以上を使う。</p> <p>④1枚のカードは4拍とする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【予想される作品の例】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;"></th> <th style="width: 25%;">(始め)</th> <th style="width: 25%;">(中)</th> <th style="width: 25%;">(終わり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クラベス</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ジャンベ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>すず</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div>		(始め)	(中)	(終わり)	クラベス				ジャンベ				すず				<ul style="list-style-type: none"> ルールに則って全体で例として音楽をつくってみることで、学習の見通しをもたせるようにする。 3人(4人)で演奏しやすいように1枚のカードを4拍とする。 	
	(始め)	(中)	(終わり)																
クラベス																			
ジャンベ																			
すず																			
	<ul style="list-style-type: none"> 全体でつくった音楽を、異なる材質の楽器を使って代表の児童が演奏する。 打楽器の音の組合せの違いによる響きを感じ取るために、木の楽器同士、金属の楽器同士、皮の楽器同士で、全体でつくった音楽を演奏してみる。 全体でつくった音楽の楽譜を見ながら、音楽の縦と横との関係について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が意図的に指名するようにする。 他にも、大きさの違うフレームドラムで演奏した場合なども試して児童に聴かせるようにする。 大きさの違うフレームドラムを使う場合以外は同じ楽器は使わないように伝える。 音が重なったりつながったりして音楽が進んでいくことを押さえる。 																	

展 開 30 分	打楽器の音の組合せや重ね方、つなげ方を工夫して 「中」の部分の音楽をつくろう。	
	<p>○打楽器の音の組合せや重ね方、つなげ方を工夫して3人一組で音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人一組のグループに分かれ（一グループのみ4人一組）、どんな楽器を使うか試して決める。 ・ミニホワイトボード上でマグネット式のカード㊶～㊸を操作しながら、楽器の組合せや重ね方、つなげ方を工夫して「中」の部分をつくる。 ・工夫したことを3人（4人）で1枚のミニホワイトボードに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室内に、材質ごとに楽器を並べておく。 ・グループごとにワークシートを貼ったミニホワイトボード1枚、㊶～㊸のカードを3組ずつ（4人グループは4組ずつ）配布する。つくっていてカードが足りないグループには追加で配布する。
	<p>【予想される児童の工夫の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の楽器だけを使って響きにまとまりを出しました。 ・いろいろな材質の楽器を使って、音色に違いが出るようにしました。 ・㊶のカードをくりかえすようにつなげ、その後に3人一緒に㊸のカードを演奏して、盛り上がった後に落ち着くようにしました。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・幾つかのグループがつくった音楽を全体で発表し聴き合う。 ・聴き合ってみていいなと思った楽器の組合せや重ね方、つなげ方を取り入れながら「中」の部分完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音色や音の特徴を生かした楽器の組合せや、音楽の仕組みを生かした重ね方やつなげ方をしているグループを取り上げて発表させるようにする。 	

まとめ5分	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことや分かったことについて振り返りをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器の音の組合せや音のつなげ方、重ね方を工夫してわかったことについて何人かの児童に発表させる。 	<p>① 音色、音の重なり、音楽の縦と横との関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>
-------	--	---	--

(3) 板書計画

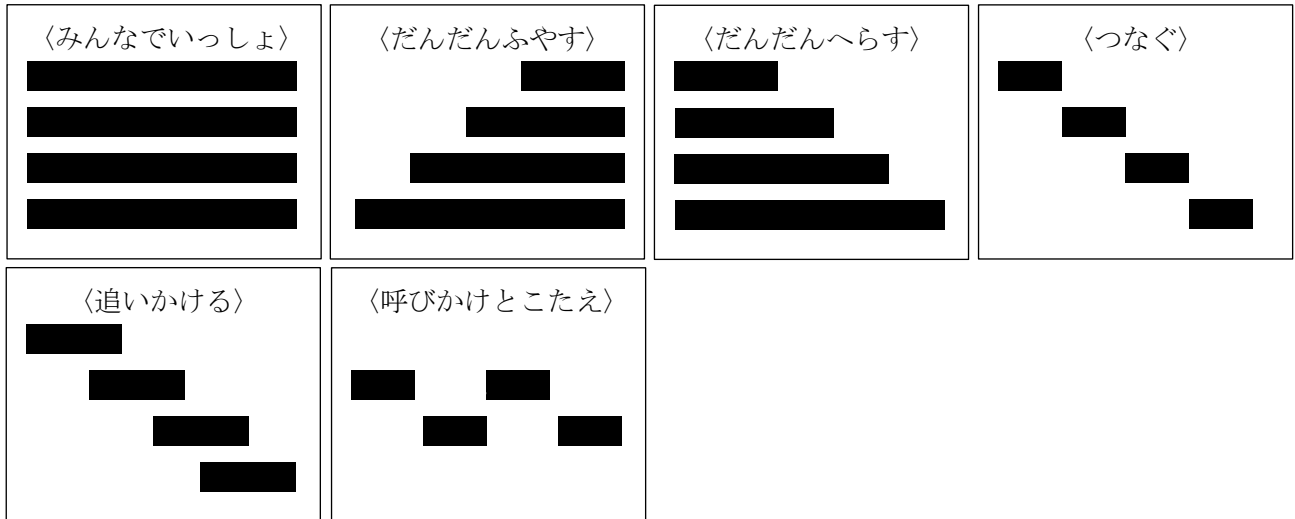
ホワイトボード



黒板

<p><ルール></p> <p>① 「始め」と「終わり」の部分は []。</p> <p>② 「中」の部分は4種類のカードを自由に組み合わせてつくる。</p> <p>③ ㊦～㊩の4種類のカードのうち3種類以上を使う。</p> <p>④ 1枚のカードは4拍とする。</p>	<p><話し合いの順番></p> <p>① どの楽器を使うか、みんなで試して決める。</p> <p>② 「中」の部分、横につなげたり、たてに重ねたりしてつくる。</p>
---	--

壁の掲示物（いろいろなつなげ方や重ね方の例を図で表したもの）



(4) 授業観察の視点

- ア スモールステップでの授業展開は児童に達成感をもたせるために有効であったか。
- イ マグネット式の図形のカードやミニホワイトボード、いろいろなつなげ方や重ね方を示した掲示物は、学習の過程を視覚的に捉えるために有効であったか。
- ウ グループ活動での対話的な学びが、児童の深い学びにつながっていたか。